

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立赤松小学校			達成度（評価） A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である																																																																					
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が示す学校教育デザインを受けて、教職員が学校評価項目（成果指標・具体的取組）を考え、たえず意識してそれぞれの教育活動にあたることができた。また、各部での取組も活性化した。 ・学力向上については、校内研究や学力向上研修会をとおして全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。今年度は、「自ら学ぶ・自分で考え、自分で決める」授業へとさらに改善を図りたい。 ・コミュニティスクールの推進については、学校運営協議会、まちづくり協議会、公民館等、協働体制が整っている。今後は、さらに学校でも地域人材を活用した授業を取り入れるとともに、公民館地域行事への参加を児童に促したい。 																																																																								
2 学校教育目標	ふるさと赤松を大切にし、志をもって行動できる子どもの育成 【めざす子どもの姿】 あいさつする子 かんがえ こうどうする子 まけずにがんばる子 つながる子やさしい心で																																																																								
3 本年度の重点目標	<p>「今年のスローガン」 well-being ~みんなが~</p> <p>【自ら学ぶ・自分で考え、自分で決める】 ◆学び方はベース・学習内容に選択肢のある授業 ◆自らやりたくなる探求的な学び（活動・体験）</p> <p>【豊かな心-自分も、みんなも幸せに】 ◆みんなあ楽しい学級・学校づくりの取組 ◆「誰一人取り残さない」SDGsの視点を取り入れた総合的な学習の時間・人権教育等</p> <p>【たくましく生きる-チャレンジ】 ◆生活科・総合的な学習の時間における試行錯誤しながら、粘り強く取り組む活動 ◆佐賀県スポーツチャレンジの取組</p>																																																																								
4 重点取組内容・成果指標			5 最終評価																																																																						
<p>(1) 共通評価項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th rowspan="2">重点取組</th> <th rowspan="2">具体的取組</th> <th colspan="2">最終評価</th> <th rowspan="2">学校関係者評価</th> </tr> <tr> <th>達成度（評価）</th> <th>実施結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">●学力の向上</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○【自ら学ぶ・自分で考え、自分で決める】授業の実践 ○【試行錯誤を繰り返し、粘り強く学びに向かう児童の育成】を目指す。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○「学び方やベース・学習内容に選択肢のある授業を行って」と回答した教職員85%以上 ○「粘り強く学びに向かうことができた」と回答する児童85%以上 ○赤松小ICT利活用技能系統表の指導事項を当該学年で指導したと回答する教職員100% </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○毎学期末のアンケートにおいて「自分が幸せか」「みんなが幸せなクラスだと思うか」「みんなが幸せなクラスのために何か行動しているか」について肯定的な回答80%以上。 ○フリー参観(6月または11月)で、保護者参加型の道徳を行う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・単線型(教師による一斉授業のみ)の授業だけでなく、学習形態、学習進度、学習内容など多様な選択肢を準備して、児童が自己決定しながら学び進めることができるような手立てを講じる。 ・生活科・総合的な学習の時間を軸に、探求的な学びのプロセスを意識した実践を行う。また、探求的な学びのプロセスを他教科にも広げる。 ・教師のミニ研修会を開催したり、情報推進担当やICT支援員のT2による授業支援を行う。また、スキルタイムにて確実な活用を促す。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●心の教育</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○「困ったときは、大人の人に相談していますか」と回答した児童80%以上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級との情報交換を密に行い、生徒指導の体制について分析、修正を行う。 ・子ども支援全体会や連絡会等で児童の情報を全職員で共有し、対応していく。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ○「将来の夢や目標(志)を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた授業や活動 各学級100%。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童とが個別に話をするひだまりタイムを年2回設け、児童の声を拾いややすい体制づくりを行う。 ・総合的な学習の時間を通じて、地域の人々や環境、偉人についての学習を行うことで、自身のキャリアとつなげて考えることができるような課題を設定する。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●健康・体つくり</td> <td>●「運動習慣の改善や定着化」</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツチャレンジの取組 各学級1種目以上、5回以上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・普段運動をしない児童も積極的に運動をしている児童も、運動に対する意欲を高め、仲間と共に運動に親しむ契機としてスポーツチャレンジを実施する。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td> <td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。 ・学年主任会等をとおして、行事や業務の目的を浸透させ、スマーズな学校運営に資する。連絡掲示板を多く活用する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、保護者対応の時間を減らす。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●特別支援教育の充実</td> <td>○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し、UD化を実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が90%以上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th rowspan="2">重点取組</th> <th rowspan="2">具体的取組</th> <th colspan="2">最終評価</th> <th rowspan="2">学校関係者評価</th> </tr> <tr> <th>達成度（評価）</th> <th>実施結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">○コミュニティスクールの推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ○活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活動の活性化を図る。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活動への参加意識を昨年度よりも3%高める ○わくわくカードの内容を工夫し、8こ以上スタンプを集めることができる児童80%以上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信し、より多くの方の理解や協力を得る。 ・公民館やまちづくり協議会にもスタンプを預け、地域行事に参加した際にスタンプをもらえるようにする。 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○レインボー週間の徹底</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○教員・保護者共に、意識を高くもって、レインボーワークshopに取り組む。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の目標(低学年30分、中学年45分、高学年60分)の達成率80%以上。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・レインボーワークshopを実施する直前に、家庭で意識すべきポイントをレインボーワークshopでお知らせする。 ・レインボーワークshopを実施する直前に、校内で意識すべきポイントを、各学級スライドで確認する。 ・レインボーワークshopで、学年便り等で、レインボーワークshopの振り返り(コメントや統計によるもの)を行い、保護者へのフィードバックを行う。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>●…県共通 ○…学校独自 ○…志と誇りを高める教育</p> <p>5 総合評価・次年度への展望</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>						評価項目	重点取組	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	達成度（評価）	実施結果	●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○【自ら学ぶ・自分で考え、自分で決める】授業の実践 ○【試行錯誤を繰り返し、粘り強く学びに向かう児童の育成】を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学び方やベース・学習内容に選択肢のある授業を行って」と回答した教職員85%以上 ○「粘り強く学びに向かうことができた」と回答する児童85%以上 ○赤松小ICT利活用技能系統表の指導事項を当該学年で指導したと回答する教職員100% 				<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎学期末のアンケートにおいて「自分が幸せか」「みんなが幸せなクラスだと思うか」「みんなが幸せなクラスのために何か行動しているか」について肯定的な回答80%以上。 ○フリー参観(6月または11月)で、保護者参加型の道徳を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単線型(教師による一斉授業のみ)の授業だけでなく、学習形態、学習進度、学習内容など多様な選択肢を準備して、児童が自己決定しながら学び進めることができるような手立てを講じる。 ・生活科・総合的な学習の時間を軸に、探求的な学びのプロセスを意識した実践を行う。また、探求的な学びのプロセスを他教科にも広げる。 ・教師のミニ研修会を開催したり、情報推進担当やICT支援員のT2による授業支援を行う。また、スキルタイムにて確実な活用を促す。 			●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○「困ったときは、大人の人に相談していますか」と回答した児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級との情報交換を密に行い、生徒指導の体制について分析、修正を行う。 ・子ども支援全体会や連絡会等で児童の情報を全職員で共有し、対応していく。 			<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ○「将来の夢や目標(志)を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた授業や活動 各学級100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童とが個別に話をするひだまりタイムを年2回設け、児童の声を拾いややすい体制づくりを行う。 ・総合的な学習の時間を通じて、地域の人々や環境、偉人についての学習を行うことで、自身のキャリアとつなげて考えることができるような課題を設定する。 			●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツチャレンジの取組 各学級1種目以上、5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段運動をしない児童も積極的に運動をしている児童も、運動に対する意欲を高め、仲間と共に運動に親しむ契機としてスポーツチャレンジを実施する。 			●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。 ・学年主任会等をとおして、行事や業務の目的を浸透させ、スマーズな学校運営に資する。連絡掲示板を多く活用する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、保護者対応の時間を減らす。 			●特別支援教育の充実	○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し、UD化を実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化	<ul style="list-style-type: none"> ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。 			評価項目	重点取組	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	達成度（評価）	実施結果	○コミュニティスクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ○活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域活動への参加意識を昨年度よりも3%高める ○わくわくカードの内容を工夫し、8こ以上スタンプを集めることができる児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信し、より多くの方の理解や協力を得る。 ・公民館やまちづくり協議会にもスタンプを預け、地域行事に参加した際にスタンプをもらえるようにする。 			○レインボー週間の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○教員・保護者共に、意識を高くもって、レインボーワークshopに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の目標(低学年30分、中学年45分、高学年60分)の達成率80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レインボーワークshopを実施する直前に、家庭で意識すべきポイントをレインボーワークshopでお知らせする。 ・レインボーワークshopを実施する直前に、校内で意識すべきポイントを、各学級スライドで確認する。 ・レインボーワークshopで、学年便り等で、レインボーワークshopの振り返り(コメントや統計によるもの)を行い、保護者へのフィードバックを行う。 		
評価項目	重点取組	具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																				
			達成度（評価）	実施結果																																																																					
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○【自ら学ぶ・自分で考え、自分で決める】授業の実践 ○【試行錯誤を繰り返し、粘り強く学びに向かう児童の育成】を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学び方やベース・学習内容に選択肢のある授業を行って」と回答した教職員85%以上 ○「粘り強く学びに向かうことができた」と回答する児童85%以上 ○赤松小ICT利活用技能系統表の指導事項を当該学年で指導したと回答する教職員100% 																																																																							
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎学期末のアンケートにおいて「自分が幸せか」「みんなが幸せなクラスだと思うか」「みんなが幸せなクラスのために何か行動しているか」について肯定的な回答80%以上。 ○フリー参観(6月または11月)で、保護者参加型の道徳を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単線型(教師による一斉授業のみ)の授業だけでなく、学習形態、学習進度、学習内容など多様な選択肢を準備して、児童が自己決定しながら学び進めることができるような手立てを講じる。 ・生活科・総合的な学習の時間を軸に、探求的な学びのプロセスを意識した実践を行う。また、探求的な学びのプロセスを他教科にも広げる。 ・教師のミニ研修会を開催したり、情報推進担当やICT支援員のT2による授業支援を行う。また、スキルタイムにて確実な活用を促す。 																																																																						
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○「困ったときは、大人の人に相談していますか」と回答した児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級との情報交換を密に行い、生徒指導の体制について分析、修正を行う。 ・子ども支援全体会や連絡会等で児童の情報を全職員で共有し、対応していく。 																																																																						
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ○「将来の夢や目標(志)を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた授業や活動 各学級100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童とが個別に話をするひだまりタイムを年2回設け、児童の声を拾いややすい体制づくりを行う。 ・総合的な学習の時間を通じて、地域の人々や環境、偉人についての学習を行うことで、自身のキャリアとつなげて考えることができるような課題を設定する。 																																																																						
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツチャレンジの取組 各学級1種目以上、5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段運動をしない児童も積極的に運動をしている児童も、運動に対する意欲を高め、仲間と共に運動に親しむ契機としてスポーツチャレンジを実施する。 																																																																						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。 ・学年主任会等をとおして、行事や業務の目的を浸透させ、スマーズな学校運営に資する。連絡掲示板を多く活用する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、保護者対応の時間を減らす。 																																																																						
●特別支援教育の充実	○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し、UD化を実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化	<ul style="list-style-type: none"> ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。 																																																																						
評価項目	重点取組	具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																				
			達成度（評価）	実施結果																																																																					
○コミュニティスクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ○活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域活動への参加意識を昨年度よりも3%高める ○わくわくカードの内容を工夫し、8こ以上スタンプを集めることができる児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信し、より多くの方の理解や協力を得る。 ・公民館やまちづくり協議会にもスタンプを預け、地域行事に参加した際にスタンプをもらえるようにする。 																																																																						
	○レインボー週間の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○教員・保護者共に、意識を高くもって、レインボーワークshopに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の目標(低学年30分、中学年45分、高学年60分)の達成率80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レインボーワークshopを実施する直前に、家庭で意識すべきポイントをレインボーワークshopでお知らせする。 ・レインボーワークshopを実施する直前に、校内で意識すべきポイントを、各学級スライドで確認する。 ・レインボーワークshopで、学年便り等で、レインボーワークshopの振り返り(コメントや統計によるもの)を行い、保護者へのフィードバックを行う。 																																																																					